

連携シート（B表）

1 教育課程（B表）の留意事項

- ・ 教育課程（B表）は、各教科を知的障がいのある生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えて教育課程を編成する場合に使用する。
- ・ 学習評価は、特別支援学校中学部学習指導要領に示す知的障がい特別支援学校の各教科等の目標・内容に照らし、具体的に定めた指導内容、実現状況等を文章で記述する。
- ・ 通常の学級の生徒と同じ授業を受ける場合も、生徒の実態に応じた個別の目標を設定し、目標を達成するための支援の手立てを明確にし、その目標が達成できたかどうか評価することが重要である。

2 様式2の別表「目標例と支援の手立て」の説明

- ・ 様式2の別表「目標例と支援の手立て例」で示す各教科の目標や内容は、特別支援学校学習指導要領解説（幼稚部・小学部・中学部）の知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部の各教科の目標と内容である。
- ・ 様式2の別表「目標例と支援の手立て例」は、特別支援学校学習指導要領解説（幼稚部・小学部・中学部）の知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部の各教科の目標と内容を踏まえて、中学校の各教科の内容を考慮し作成している。

3 個別の目標と支援の手立ての考え方

- ・ 個別の目標は、特別支援学校学習指導要領解説（幼稚部・小学部・中学部）の知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標や内容を参考に設定する。
- ・ 生徒の実態は一人一人違うため、様式2の別表「目標例や支援の手立て例」を参考にして、生徒の実態に合った目標や支援の手立てを考えるとよい。

4 記入の仕方

(1) 様式1「生徒の実態表」(エクセルシート)を記入する。

- ・ 学校生活全般における生徒の特徴、教科に関する児童の特徴、短期目標、支援の手立てを記入する。
- ・ 個別の指導計画を作成している場合は個別の指導計画から転記したり、一部省略したりしてもよい。また、個別の指導計画を代用してもよい。

(2) 様式2(エクセルシート)を記入する。

様式2-1「学期用」と様式2-2「単元(題材)用」のうち、活用しやすい様式を選んで記入する。

ア 単元(題材)名を記入する。

イ 教科の単元(題材)の目標を記入する。

ウ 個別の目標を記入する。

- ・ 別表「目標例と支援の手立て例」の目標例を参考に、生徒の実態に応じて個別の目標を記入する。

※ 様式2の個別の目標は、個別の指導計画及び「生徒の実態表」の短期目標のうち、教科学習における交流及び共同学習に関連する目標を、単元ごとに具現化したものである。

※ 個別の目標を設定するときは、条件(どのような支援をすると)や達成基準(どの程度、どれくらいできるとよいか等)を盛り込むことが大切である。

(単元名) 【器械運動】マット運動

(目標例) 「教師の言葉掛けを聞きながら、連続技を1回以上する。」

条件

達成基準

エ 支援の手立てを記入する。

- ・ 別表「目標例と支援の手立て例」の支援の手立て例を参考に、生徒の実態に応じて個別の支援を記入する。

※ 「個別の目標の中に含まれる条件」に対応させ支援の手立てを考えていく。支援の手立てについて具体的(誰が、どのように)に記入する。

(支援例) 目線や手の位置を意識させる言葉を掛ける。

【解説】 生徒が目線や手の位置を意識できるように、教師が本生徒のそばで言葉掛けをします。

オ 単元(題材)又は学期終了後に評価する。

(評価例) 教師が掛けた言葉を聞いて目線や手の位置を意識し、連続技を3回することができた。

【解説】 目標の達成基準は、「連続技を1回以上する」ことなので、それができたかどうかを記述します。